

出会いの不思議

明桜館高校に赴任して驚いたことの一つに、PTA会長さんが学生時代の同級生であったことでした。それも、大学の学友会剣道部で4年間、剣道場で互いに汗を流し、授業以外はほとんど一緒に行動していた、同じ釜の飯を食ったという表現どおりの友人でした。

子育てや仕事の都合で、会えない時期が長かったので、お互いに、このような縁があるとは夢にも思わないことでありました。

留盛会長には、昨年度の卒業式と先日の入学式で、祝辞をいただきましたが、どちらも学生時代に私が彼に感じていたとおり、愛情のある素晴らしい祝辞でした。

昨年度末の卒業式では、卒業生に「立派に健康に育ってくれて、ありがとう。今までも、これからも、皆さんは私たちの宝物です。愛していますよ。」と親としての気持ちを優しくストレートに語っていただきました。

先日の入学式では、私たちの学生時代の話から「人生力」と「読書の大切さ」について、そして、Jリーガーのキング・カズこと三浦和良さんの「学ばない者は、人のせいにする。 学びつつある者は、自分のせいにする。 学ぶと言うことを知っている者は、誰のせいにもしない。 僕は学び続ける人間でいたい。」ということばを引用し、新入生に学び続けることの大切さを伝えていただきました。

私は、今回、出会いの不思議を感じながら、また、三十数年前の若かった頃を思い出しながら、流暢なかごしま弁で語る旧友の祝辞を聞くことができました。

思い起こせば、大学の剣道場に「交剣知愛（こうけんちあい）」と書かれた部旗がありました。「剣を交えて愛おしむ」を知ると読み、一緒に稽古した人ともう一度会って稽古や試合をしたいと思うような剣道をやりなさいという意味です。楽しいことも苦しいことも共有した仲間だったからこそ、こうして出会いを楽しむことができたのだと思います。

今年、入学した12期生と在校生が、明桜館で共に学びながら、友に習い、たまたまここで出会った不思議な縁を大事にして、これからの長い人生の中でも活かしてくれることを心より願っています。